

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10586002				
授業名	宗教社会と民族文化 A	形態	講義	単位	2
担当教員	武田 道生				
開講学期	2019年度 後学期	曜日・時限	月曜4限		
授業目的	現代世界の多様な宗教文化の特徴と意味を理解する				
授業内容	本講義では、初めに宗教とは何かという視点で、様々な定義を紹介し、世界の諸宗教を比較検討する。次いで、宗教はどのように分類されるのかを考え、様々な宗教の神観、世界観、人間観を比較考察する。その後、宗教を構成する様々な要素、「祈り」「儀礼」「祭り」「修行と戒律」「他界-死後の世界」「シャマニズム」「聖地と巡礼」等について、ビデオなど具体的な事例を通して学習する。最後に現代社会の特徴を考え、新しい宗教運動の特徴とその社会的意味を考察し、現代世界の宗教文化と民族の特徴を明らかにする。				
到達目標	①宗教文化は、人類に共通する文化であることを理解する。②宗教文化は、教団宗教ばかりではなく、人間の生活文化全般の基底をなす文化であることを理解する。③現代世界における多様な宗教文化の状況について理解を深め、国際社会における幅広い教養を身につける。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	少人数の受講者が予想されるのでアクティブラーニング形式の授業を行う。講義のテーマに沿って、前回あらかじめ指定した分担の宗教文化について、各自調べ、ビデオ等を見てその内容についてディスカッションや感想文の提出を行うなど、当該宗教文化の多様性と普遍性を理解する。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後60時間（第1～15回目授業までの総合計）				
テキスト	石井研士『プレステップ 宗教学』 弘文堂、1800円				
評価方法	出席は学生にとって当然の義務として積極的な授意見の交換、発表等、授業内容に関するまとめと感想を提出。授業内振り返り試験で評価します。				
評価基準	授業理解ペーパー、ミニレポート数回、40点。理解度到達度をはかるための授業内考査60点。合計が60点以上ならば合格です。提出物をきちんと提出することが重要です。				
試験・レポート等のフィードバック	授業で行った提出物は、次回乃至次々に返却します。各自、自己の責任に於いて管理し、また、授業期間内振り返り試験に備えておくこと。振り返り試験については、最終授業において返却し、答えあわせを行いつつ、全授業内容に振り返りを行います。				
注意事項及び履修条件	授業で取り扱う範囲が非常に広いので、積極的に授業に出席することを希望します。1800円を惜しんで、テキストを購入しない学生を見かけますが、試験のためばかりか、将来社会に出てからも有益な書籍なので、購入するとよいと思います。				

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	「第1章 宗教学への招待」を熟読し、宗教の起源、歴史的発展、様々な宗教の現状について、概略を把握しておくこと。
授業内容	【オリエンテーション -宗教とは何だろうか?-全回の授業の展開の概要説明 宗教とは何か?の解説] オリエンテーションでは、宗教学とは何かについて理解するために、世界の諸宗教とその信者数を国際的視野から数値的に理解する。ついで、宗教の起源とその歴史について学び、そこから、神をたてる宗教と神をたてない宗教のそれぞれの相違を学ぶ。さらに、世界宗教と民族宗教の違いを具体的な例を挙げながら理解してゆく。
事後学習	この回の内容は、非常に複雑で多岐にわたっているので、きちんと整理しておくこと。事後学習のために本章の課題に取り組んでおく。次回提出課題「世界宗教と民族宗教の違い」 5点
参考文献	特になし

第2回	
事前学習	18頁の「講義の前に」を読んだうえで、本文を読み19頁の学習のポイントを自分なりに考えておく。
授業内容	【「第2章 祈り」-なぜ人はいののか?-】 どの宗教でも祈りのない宗教はないと言ってもよい。この章では宗教の根本的な要素である「祈り」について、その定義を考え、イスラーム、仏教、神道などの「祈り」と「祈りの言葉」と「類型とその意味」について考える。
事後学習	この授業で説明した以外の宗教、例えばユダヤ教、ヒンドゥー教など、あるいは日本の仏教諸派ではどのような祈りの言葉があるのか調べてみる。
参考文献	特になし

第3回	
事前学習	本章全体をあらかじめ読み、儀礼はなぜ必要とされているのかを考えておく。また疑問に思うこと、

	理解できないことについてあらかじめチェックしておくこと。
授業内容	【「第3章 儀礼 ①」-なぜ儀礼があるのだろうか-】まず、年中行事と通過儀礼について理頭する。私たち日本人の年中行事と通過儀礼の意味を考える。次に儀礼の種類についてその内容から考察する。そして、儀礼の構造と機能について、ファン・ヘネップの学説を説明する。
事後学習	年中行事などの儀礼の目的はどのようなものか考えてまとめておく。自分が行ったあるいは知っている年中行事との比較を考えてくる。 課題提出
参考文献	授業中に紹介する。以下の授業も参考文献は、講義中に紹介する。

第4回	
事前学習	本章全体をあらかじめ読み、儀礼はなぜ必要とされているのかを考えておく。また疑問に思うこと、理解できないことについてあらかじめチェックしておくこと
授業内容	【「第3章 儀礼 ②」-イニシエーションの意味と構造-】未開社会の成人式のビデオを見て、成人式の持つ社会的重要性を考察する。
事後学習	ビデオの内容を、ヘネップの儀礼の構造と機能に即して解説し、感想を書く課題レポート。
参考文献	特になし

第5回	
事前学習	現代における成人式の意味を未開社会のそれと比較考察する。
授業内容	映画「スタンド・バイ・ミー」をみて、大人になることの苦痛、社会に出ること、自分を成長させることの苦難を、現代における「成人」とはどういうことかを、前回の未開社会と比較して考える。
事後学習	課題レポート提出
参考文献	特になし

第6回	
事前学習	本章全体をあらかじめ読み、人にはなぜ修行が必要なのか、修行とは何なのか、どのような意味があるのか、を考えておく。また、疑問に思うこと、理解できないことについてあらかじめチェックしておくこと。
授業内容	【「第5章 修行と戒律」-なぜ修行が必要なのか-】宗教において、修行が宗教的理想に近づくための、心身を鍛える行為であることを理解する。インドのヨーガや、仏教の座禅・公案・断食、イスラームの断食について学ぶ。修行の種類と構造について理解し戒律の意味を考える。
事後学習	人はなぜ、厳しい修行に惹かれるのだろうか？レポート感想文提出。
参考文献	特になし

第7回	
事前学習	祭りはなぜ人を熱狂させるのか。意味と構造を考える。
授業内容	【「第4章 祭り -人はなぜ祭りに熱中するのか-】祭りの意味と定義について理解する。また現代人が祭りに熱狂することから、祭りの熱狂のビデオを見て、現代における祭りの意味と機能について考える。「ビデオ ブラジルの巨大山車の祭り ポイブンバ」を見る。
事後学習	レポート感想文提出。
参考文献	特になし

第8回	
事前学習	本章全体をあらかじめ読み、人は死んだらどこに行くのか、これまで人類はどのような死後の世界を考えてきたのか、そこにどのような意味があるのか、を考えておく。また、疑問に思うこと、理解できないことについてあらかじめチェックしておくこと。
授業内容	【「第7章 死後の世界」-人は死んだらどこに行くのだろうか?-】宗教と死は重要な関連がある。そのことを理解し、仏教、キリスト教など世界の諸宗教の死後の世界はどのようなものかについて考える。そこには、理想とする天国のような世界も地獄もある。なぜそのような世界はあると考えるのだろうか。
事後学習	天国と地獄といった対立する世界はなぜ必要とされるのか考えよう。レポート課題提出。
参考文献	特になし

第9回	
事前学習	テキスト第7章の後半の「輪廻と生まれ変わり」を読み、そこにどのような意味があるのか、を考えておく。また、疑問に思うこと、理解できないことについてあらかじめチェックしておくこと。
授業内容	【「第7章 死後の世界 2」-日本人の死生観-】日本人の伝統的な死生観がどのようなものであり、そうした死生観が成立した閉経を考える。そして現在、そのような死生観がどのように変質しているのかを、現代社会の状況を分析し考える。
事後学習	現代人の死生観について考察する。レポート課題。
参考文献	特になし

第10回	
事前学習	本章全体を熟読し、あらかじめシャマニズムとはどのような現象か、その意味と定義を理解しておく。また、シャマニズムの構造について考えておく。

授業内容	【「第8章 シamaniズム」-神がかりと憑きものの世界-】 具体的なビデオなどを見ながら、シamaniズムがどのようなもので、その機能はどのようなことなのかについて考察する。また、未開民族から、古代宗教、民族宗教から現代の新宗教まで、シamaniズムが宗教の重要な要素になっていることを理解する。
事後学習	本章で取り上げられていなかったシamaniズムについて、映画などから理解する。
参考文献	特になし

第11回	
事前学習	世界の諸宗教は、いずれも聖地といわれる場を持っている。それらがどのような理由で聖地となっているのかをあらかじめ理解しておく。
授業内容	【「第9章 聖地と巡礼 ①」-聖地とはなにか-】 世界の代表的な諸宗教の聖地について概説する。そしてそれらがどのような理由で聖地とされるようになったのか歴史的な経緯とその構造について、理解する。ビデオを見ながらエルサレムの聖地性を考える。
事後学習	各宗教にとって、聖地はどのような意味を持っているのかについて、理解する。
参考文献	特になし

第12回	
事前学習	105頁以降の巡礼を読み、各宗教におけり代表的な巡礼について理解し、巡礼の意味と構造を考えておく。
授業内容	【「第9章 聖地と巡礼 ②」-聖地への聖なる旅の目的はなにか-】 代表的なイスラームのメッカ巡礼、聖なる山カイラス巡礼、キリスト教の巡礼、日本の巡礼について概略を理解し、それらに共通する巡礼の構造について学び、巡礼による人格ないし社会的変化を知る。
事後学習	巡礼による変化はどのようなものか、メッカ巡礼について「マルコムXなど映画の事例を通して考える。感想文提出。
参考文献	特になし

第13回	
事前学習	日本人の宗教性の質について、ほかの国と比較して、どのような特徴があるのか、あらかじめ理解しておく。その特徴は、若者を中心にどのように変わりつつあるのかを考えておく。
授業内容	【「第12章 現代日本の宗教」-日本人の宗教はどこに向かうのか?-】 日本人は無宗教であると一般に言われているが、宗教団体への帰属、日本人の宗教観の独自性、そこから考えられる「生活の中の宗教」という「日本人の宗教観」について考える。そしてさらに、現代の日本の若者の宗教的関心の変化について考える。
事後学習	宗教と宗教団体の違いを理解したうえで、宗教団体の社会的意味について考える。
参考文献	特になし

第14回	
事前学習	授業の中で、振り返り考査を行うので、予めこれまでの授業内容を、テキストの中で解説した全部分をもう一度よく読み込み、理解を深めておく。
授業内容	振り返り考査 60分。テキスト持ち込み可。やむを得ず試験を欠席した場合には、16回目に試験と解説を行う。
事後学習	振り返り考査の自己の課題を整理しておくこと。
参考文献	特になし

第15回	
事前学習	これまでの授業を振り返り世界の宗教文化の特徴と共通性を考えておく。
授業内容	【現代社会における宗教文化を考える】これまでの授業から、宗教のさまざまな要素や側面現象が明らかになった。各人の問題意識や理解度を、全授業から再考察する。
事後学習	この授業から、現代においても、宗教文化の理解は、きわめて重要なことができたと思う。今後の社会生活に十分に生かしてほしい。
参考文献	特になし

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p>&lt;DP-1&gt; 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p>&lt;DP1-(1)&gt; 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(2)&gt; 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(3)&gt; 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p>
-----------	---

<DP1-(4)>

人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。